

(参考)

## 科学技術振興調整費について

### 科学技術振興調整費とは

総合科学技術会議が示す方針の下で、

各府省の施策の先鞭となるもの

各府省毎の施策では対応できていない境界的・融合的なもの

複数機関の協力により相乗効果が期待されるもの

機動的に取り組むべきもの

等で、その成果が更に新たな施策や他の研究のシーズとなって発展する等、政策誘導効果の高い施策に活用する資金。

「科学技術振興調整費の活用に関する基本方針」(平成13年3月総合科学技術会議決定)の下で、総合科学技術会議が、毎年度、振興調整費を活用するプログラムの概要等を示した「科学技術振興調整費の配分の基本的考え方」等を作成。

(科学技術振興調整費の配分事務は、文部科学省が実施。)

### 平成13、14年度新規実施プログラム

- (1) 優れた成果の創出・活用のための科学技術システム改革
  - 産学官共同研究の効果的な推進(平成14年度新規)
  - 戦略的研究拠点育成
  - 若手任期付研究員支援
  - 科学技術政策提言
- (2) 将来性が見込まれる分野・領域への戦略的対応等
  - 先導的研究等の推進
  - 新興分野人材養成
- (3) 科学技術活動の国際化の推進
  - 我が国の国際的リーダーシップの確保

「新興分野人材養成」プログラムの概要（平成14年度）

(1) 内容

科学技術の振興にとって重要領域ではあるが人材が不足しており、戦略的な人材養成により、世界における我が国の地位を確保する必要がある新興の研究分野や、産業競争力の強化の観点から人材の養成・拡充が不可欠な研究分野において、プロフェッショナルを早期に育成するための人材養成ユニットを機動的に設置する。

(2) 平成14年度充当見込額

19.1億円（うち新規選定分10億円）

(3) 対象機関

大学及び国立試験研究機関等（独立行政法人・特殊法人等の研究開発期間を含む）であって、大学院修士課程以上のレベルの実務者・研究者の養成を行うことが可能な研究開発機関を対象とする。

(4) 対象分野（下線部は平成14年度新規）

バイオインフォマティクス（システム生物学を含む）

及びバイオスタティスティクス

基盤的ソフトウェア

計算機を活用した物質・材料・プロセス開発

知的財産（保護・活用に関する、社会科学と科学技術の両面にまたがる領域）

(5) 選定方法

公募により選定する。（平成14年度新規選定分については、現在文部科学省において選定中）

(6) 選定に当たっての留意点

(a) 大学院修士課程以上のレベルの実務者・研究者の養成を行うことが可能なものを選定する。

(b) 研究開発機関から提案される人材養成計画の妥当性及び効率性を重視する。

(c) 民間の協力が得られるものを重視する。

(d) 本プログラムによる人材養成の後においても、引き続き当該分野の人材養成を継続する計画を有していることを重視する。

(e) 当該研究開発機関の研究開発実績を重視する。

(7) 平成13年度開始案件数（平成13年度から5年間予定）

バイオインフォマティクス（6億円/年） 4件

基盤的ソフトウェア（3.1億円/年） 3件

平成13、14年度の科学技術振興調整費の予算内訳

(単位：億円)

	13年度 予算額	14年度予算額	
		14年度 継続分	14年度新 規採択分
<u>14年度新規プログラム</u>	-	<u>28</u>	
産学官共同研究の効果的 な推進	-	28	- 28
<u>13年度から継続している プログラム</u>	<u>93.1</u>	<u>146.1</u>	
戦略的研究拠点育成	30	40	20 20
若手任期付研究員支援	10	15	10 5
科学技術政策提言	2	4	2 2
先導的研究等の推進	39	63	43 20
<u>新興分野人材養成</u>	9.1	19.1	9.1 10
国際的リーダーシップの確保	3	5	3 2
<u>経過措置</u>	<u>246</u>	<u>186.9</u>	
12年度以前のプログラ ムに属する研究開発課題 のうち、継続分			
<u>事務的経費</u>	<u>4</u>	<u>4</u>	
合 計	<u>343.1</u>	<u>365</u>	87.1 87